

## 下田川内 今早出川～大川

大野、佐貫、佐藤（耕）

【日時】 2008年7月19日（土）～21日（月）

【メンバー】 L大野 佐貫 棚橋 佐藤

生命力溢れる下田川内の山々が好きだ。海の日連休にこの山域を計画して、何年になるだろうか。しかるに、なぜか、立合川、黒桂河内、鶏冠谷・・・といった沢の記録が積み重なっていった。7月下旬の下田川内は、アブもおらず、雪渓に悩まされることも少ない。少々暑い、水遊びには最適だ。

今年は、何年ぶりかで天気に恵まれ、少々ミーハーであるがいつか行ってみたいと思っていたガンガラシバナを眺めに行くことができた

### 7月19日（土） 晴れ時々曇り

佐貫さんには、何回目かの再会という津川のタクシー運転手さんは、気合いを入れて林道を一の俣橋まで入ってくれた。一の俣越えの道は、最初は明瞭。二股から沢沿いをたどる辺りが分かりにくい。1400m 付近から、右岸の踏跡に乗るとスラブ帯から大滝の高巻きルートに導かれるが、照りつける太陽ともわあ～とした湿気に、汗が噴きこぼれる。最後の詰めでは適当にルートを選び、最低鞍部に出た。風が吹いて気持ちがよい。

この先は、適当に斜面を下って、12時前には今早出川についた。耕至さん、思わず水浴び。アブのいない河原は、限りなく穏やかで平和である。

水量は少なく、本来、泳ぐようなトロも腰までつかって問題なく歩いていくことができた。

横滝 2段 7m は、一段目はガバガバだが多少かぶり気味の右壁を登り、2段目は少々滑りそうな左壁を登る。左からも巻くことができる。この先の左岸で、先頭の佐貫さんの心に響く声があった。よく見ると、台地の奥には、耕至さんのハンモックを吊るす木も生えている絶好の幕場。「もう少し進んだ方が・・・」という意見もあったが、心の声に従う。

薪もたくさんあり、焚き火を囲んで気持ちよい幕となる。耕至さん特製調味料による、餃子・チキンナゲット入りラーメンにより、満腹。焚き火の周囲でのごろ寝が楽しい（大野記）



【水浴び】

## 7月20日(日) 曇り

ガンガラシバナの登攀とその後の藪稜線の所要時間が不安なため、3時起床5時出発を提案するも、「そこまでしなくても」と却下され3時半起床。快適な幕場を後に、いよいよ大伽藍へと向かう。多少、水に入ることはあるが大した泳ぎもなく、ひたすら歩き続ける。新しい足跡は幕場の先でも延々続き、先行者が釣り師ではなく沢屋であることをほぼ確信した。

「関東周辺の沢」では今早出沢は幕場に乏しいとの印象があったが、実際は随所に適地がある。



【易しいリッジ状】

変化に乏しい沢を歩くこと小一時間、前方にジロト沢を大きくしたようなスラブの播鉢が現れた。これがガンガラシバナか。前方で左右に分かれており、右側の大スラブ帯は圧巻である。それに大して左側の魚返しの大滝と思しき一条の滝がかかる沢は、困難そうではあるが一見「普通に大変そうな沢」という印象を拭えない。右俣には先行パーティーが既に取り付いているのが見え、棚橋さんはここで「ホッホー」というわらじコールが聞いたという。そういえば・・・と疑いが高まるが、結局私たちが下で取り付き地点を探してうろうろしているうちに間が開いてしまった。リーダーの大野さんは、稜線に出てからの藪漕ぎのことを考えてか少々逡巡したようだったが、やはりここまで来たからにはあの豪快なスラブ帯を辿りたく、いわゆる「右方ルンゼ」を登ることに決定。

1 P目(50m) 大野リード 最初は若干急だが木もガバもある。途中から緩いスラブ、少々ランナウト。

2 P目(50m) 棚橋リード 快適なスラブ。最後の数手が木登り。

3 P目(50m) 大野リード 一部、水流が流れるヌメった凹角を登る沢屋チックなルート取り。

4 P目(40m) 棚橋リード 易しいリッジ状に行く。

4 P ザイルを出したところで核心部は終わり、後は直登すればザイルを出さなくても巻き気味に登ればフリーで行けるような滝が続く。数箇所小難しいワンポイントがあった。

下矢筈岳(1241m)までの最後の詰めはえらく急で、足元はズルズル。多少の垂直木登りは慣れているはずの自分もさすがに腕がパンプして滑り落ちそうになった。高曇りの天気感謝しつつ、藪稜線をc.1051目指してじりじりと進行開始。



源頭部の急なところをかわして大川東又沢に下降するには、1051 から更に三川分水峰の方に向かって稜線の藪を漕いで行く必要があるようだ。地形図と藪を見ていると、それよりも 1051 から直進して東又沢右岸の尾根をある程度のところまで下ってしまったほうが良いのではないかと気がして提案した。大野さんは「どっちもどっち」という顔をしていたが、結局この案が採用される。それほど濃くはない藪を進み、途中から支尾根に入りいよいよ沢へ降りようとするが、この支尾根は下部がなかなかの急傾斜で、今早出の詰めで腕力がなくなってしまった自分には本当に落ちるのではないかと思えた。何とか懸垂無しで沢に降り立ち、5 分も歩いたところで幕場を発見、長い一日が終わった。(佐貫記)

## 7月21日(月) 晴れ時々曇り

「耕至さんがスラブを登ってるなんて、高橋さんがゴルジュ突破しているような もんですね」の佐貫さん、けだし名言。前日の稜線からの下降で、沢筋と釜が見えた時には「感動した」ね。

あとは猿のように「木懸垂」で降りて「ザブーン!」。慣れないこと、すんじゃないねえ。

さて3日目の空は夜明けから晴れ。前日の藪漕ぎがこの天気だったら干からびてたよなと思いつつ、大野君たちと砥石川から下ったことのある大川に行く。

大川ほど晴れが映える沢はないんじゃないかというくらい美しいのがこの沢だが、いかんせん水が少ない。前回泳ぎ下ったところも、あらあら「立ってあるけるジャン!」てな」もんだ。

最後の釜突破は飛び込みだが、これはコツがある。流芯を外し、その外により以上に身体をもっていくのは鉄則。場合によっては、一步踏み出してから、さらにもう一步で蹴らなければならないこともあります。

水の緑の濃さに再びたじろぎながら、バックウオーターの周囲を捲いて笠掘ダムへと足を運ばせた。(佐藤記)

### 【行程】

- 7/19 倉谷沢林道(8:00)ー今早出川(11:30)ー横向滝先C1(14:40)
- 7/20 C1(5:30)ー奥の二股(6:10)ーガンガラシバナ上(9:00)ー下矢筈(12:20)ー東又沢C2(17:40)
- 7/21 C2(6:50)ー小又沢出合(9:30)ーダム湖(12:20)ーダム(14:00)



【大川のゴルジュ】



【飛び込み。悪い見本】



【地図】室谷、駒形山、光明山、栗が岳

【グレード】溯下降で4級

